

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 電話 076-257-6972 (直通) FAX 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

病害虫発生予察特殊報第1号

ネギハモグリバエB系統の発生確認

1 病害虫名 ネギハモグリバエB系統
Liriomyza chinensis Kato

2 発生植物 ネギ

3 発生経過

令和4年6月下旬に、県内複数地域の露地ネギほ場でネギハモグリバエの著しい食害が発生し、連続した食害による葉の白化が認められた。この被害状況が、他都府県で発生が認められているネギハモグリバエB系統によるものと類似していたことから、成虫を採取し、農研機構野菜・花き研究部門に同定を依頼した結果、従来の系統(以下、A系統)とは異なるB系統のネギハモグリバエであることが確認された。

4 国内での発生状況

B系統は京都府で初めて確認され平成28年頃から被害が見られた。その後は、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府、愛知県、東京都、佐賀県、岐阜県、鳥取県、兵庫県、岩手県、秋田県、福島県、鹿児島県、福岡県、山形県、宮城県、大分県、青森県、山口県、島根県、愛媛県、群馬県、香川県及び奈良県の計32都府県で確認されている。

5 特徴

- (1) A系統のネギハモグリバエは1葉に1~2匹が寄生し、断線状の食害痕を形成するが、B系統は連続線状に食害痕を形成する(写真1)。また、B系統はA系統と比べ1葉あたり寄生幼虫数が多く、集中的に加害する傾向があり、食害が進展すると、近接した食害痕がつながり、葉が面的に白化する(写真2)など、A系統より激しい被害となる。
- (2) 幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約4mmに達する。蛹は体長約3mmの褐色、俵

状である。成虫の体長は約2mmで、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である（写真3）。形態によるA系統とB系統との識別は困難である。両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、ふ化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹になる。

6 防除対策

- (1) 現在のところ、A系統とB系統とで殺虫剤感受性に差は見られていない。「ネギハモグリバエ」や「ハモグリバエ類」に登録のある薬剤を用いて、従来と同様の防除を実施する。
- (2) 定植時には育苗トレイかん注または粒剤を施用する。多発生すると被害が激しくなることから、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 被害株や残さは発生源になるので、土中に深く埋めるか、ほ場から持ち出し適正に処分する。
- (4) 抵抗性害虫出現防止のため、同一系統薬剤（IRAC コードが同じ剤）の連用は避ける。



写真1 B系統による食害痕



写真2 B系統の食害により白化した被害葉

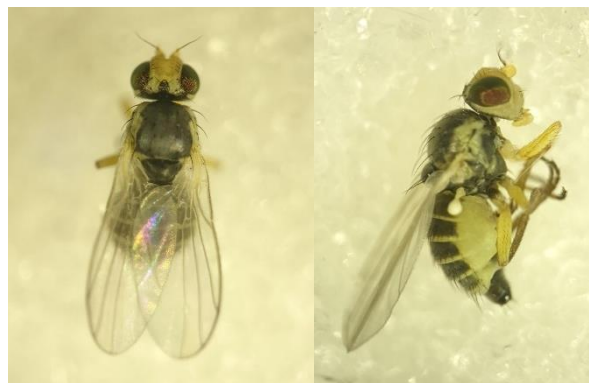


写真3 ネギハモグリバエ成虫